

令和元年 6 月 5 日

歴史学研究会編
『歴史を未来につなぐ 「3.11からの歴史学」の射程』
刊行について

2011年の東日本大震災・福島第一原発事故をうけて、歴史学研究会では2013年度から2018年度までの大会で特設部会が開催され、2013年から2017年まで10回にわたり「3.11からの歴史学」が連載されるなど、3.11以降の歴史学のあり方について活発に議論されてきました。その成果を踏まえ、新稿6本とシリーズ掲載からの18本、および座談会からなる表題の書籍が刊行されましたので、広くご紹介をよろしくお願いいたします。

【 主要目次 】

総論 「3.11からの歴史学」の現在

- 2019年の歴史的地平（大門正克）

I 3.11からの7年間で問いかけるもの

1 ふくしまの経験と歴史学（阿部浩一） 他3編

博物館・美術館展示と地域の復興・再生

1 原子力災害と博物館活動（本間 宏） 他4編

シリーズ「3.11からの歴史学」提言・時評から

- 1 歴史学再考

- 2 地域の復興・再生と歴史学・史料保存

- 3 原発開発・原子力災害と歴史学

1 4 原発事故から5年

福島県における農業・農村の現段階（小山良太）

他15編

座談会 シリーズ 「3.11からの歴史学」の射程

（阿部浩一・大門正克・奥村弘・北原糸子・保立道久/司会：鈴木茂）

あとがき（鈴木茂）

東京大学出版会、発売日：2019年5月31日 判型：A5 ページ数：348頁
ISBN978-4-13-023075-9

税込 3,780 円 本体 3,500 円

（お問い合わせ先）

行政政策学類教授 阿部 浩一

電話：024-548-8318

メール：abe@ads.fukushima-u.ac.jp